

令和7年度 事業実績報告及び自己評価

評定値 リスト	S	目標以上の成果を上げることができた
	A	目標を達成できた
	B	一部改善は必要であるが、おおよそ目標を達成した
	C	目標未達であり更なる努力や大幅な計画の見直しが必要

中期計画					令和7(2025)事業計画	令和7(2025)年度実績	自己評価		外部評価	
課題分野名	課題の数値目標	WG名	No.	事業の概要			評定値	コメント	評定値	コメント
教育改革プロジェクト	①QSP科目群としての授業の提供、または共同開発(期間中に5科目以上) ② 共同FD・SD(短大系含む)の実施(期間中に15回以上) ③ 共同研究の実施(期間中に10件以上) ④ 共同IRによる共通調査等の実施(期間中に5件以上) ⑤ 高大接続事業(共同訪問、共同説明会等)の実施(期間中に5件以上) ⑥ 地元就職支援に係る地元企業との連携事業(期間中に5件以上) ⑦ リカレント教育の講座等の実施(期間中に10件以上)	A. QSP科目群創出WG(責任校): 長崎国際大学	A-1	・教材開発、教材データベース	・これからの時代に求められるデジタル人材の育成に資する情報教育や、地方創生に貢献する上で基盤となる地域の学びに関する内容につながる教材の開発と教材データベースの構築を行い、それらが参画校の授業の中で活用される仕組みづくりを目指す。 取り組みを発展させるため、他のWGとも協働で取り組むことも踏まえた参画校との検討を進める。 ・教材開発、教材データベースに掲載するコンテンツ作成について参画校間で協議・検討する。	デジタル社会の進展で、デジタル人材育成は、その重要性は一段と増している。また、データ活用が一層重視される中、文理を問わず情報教育が行われることが求められる。データサイエンスやプログラミングなどに苦手意識を持つ学生も学びに活用することのできる教材の作成について、他のWGとも協働で取り組むことも踏まえた参画校との検討を進めている。 関連する内容による共同SD・FDを実施したことで、課題を共有し、他の事業と合わせて取組を進めた。 これまで実施した共同SD・FDで紹介された情報教育の授業で使用されている教材などをSP公式サイト上に自由に利用が可能な形で公開しており、今後、QSP科目群の取組の中から、得られる学修教材等の公開を検討した。	A	データサイエンスやプログラミングの教材作成について、他のWGとの協働を図りつつ参画校間での検討を進めた。また、これに関連して共同SD・FDを実施して課題を共有したほか、学修教材のQSP公式サイト上への公開と自由利用についても可能にするなど、当初の目標を達成することができた。		
			A-2	・単位互換	・各校の学生が学びやすい環境を整えるため、また多様な学びができるような科目構成が構築できるプラットフォームとしての基本的な制度設立に向けた準備に取り組み、今後、本取組の課題等の検討、論点整理を踏まえ、参画校での協議を進めていく。 ・「西九州探究」に関連する科目を、各参画校が提供し、相互に利用できるように共通科目群として整備することについて協議・検討を進める。	本WGの主たる取組として、QSP参画校間で運用を行う単位互換制度の構築について、これまで協議を重ね進めてきた。昨年度、単位互換制度の大枠について、合意形成することができ、本年度、開講する科目の具体的なシラバス(授業計画)や運営方法について、検討し、制度設計をまとめた。 今後、新たに設置されるQSP科目群の授業科目に関しても単位互換制度認定科目として、各校の学生が授業を履修することで、単位認定がされる。 これらを基に、本年度、QSP参画校各校で、QSP科目群の設置及び授業科目履修による自校における単位認定に関するカリキュラム、履修規程等の整備、改定を行い、各校で実施に向けた承認を得た。 QSP科目群創出WGが設置する最初の科目として、「西九州探求Ⅰ・Ⅱ」(A-3)の次年度(令和8年度)からの開講への道筋を付けることができた。 QSP公式サイト上に、QSP科目群に関する情報を公開するためのページを開設できるようにした。	S	本WGの主たる取り組みのうち、単位互換制度についてはシラバスや運営方針などについて合意形成を実現し、単位互換制度認定科目による単位認定を制度化することができた。QSP科目群の設置については、協議の継続を目標としていたが、「西九州探求Ⅰ・Ⅱ」を次年度から開講することで合意し、シラバス等をQSP公式ホームページ上に公開するなど、当初の目標を上回る成果をあげることができた。		
			A-3	・西九州探究(長崎学、佐賀学)	・A-2「単位互換」導入に向けた取り組みに合わせ、西九州探究に関連する学びができる授業科目の設置に向けた検討を参画校と一体的に議論を進めていく。	本年度、本WG運営委員会を中心にA-2「単位互換」を参画校間で導入するための協議を進め、大学間単位互換制度(QSP科目群)を構築することができた。 西九州地域(長崎・佐賀)に関する多様な学びができる科目として、西九州探求(長崎学・佐賀学)Ⅰ・Ⅱを設置することを決定し、シラバス(授業計画)等を立案した。 授業は、参画校で協働で作り上げる科目を目指し、オンライン形式とし、参画校よりそれぞれ授業担当の教員を設定し、西九州探求Ⅰは、地域文化を学び、西九州探求Ⅱは、地域産業に関する学びができるような学修内容でシラバスを構成した。 開講するための次年度における学生募集や履修登録の手続き、新規開講科目などについて、さらに継続して、参画校と協議を進めている。	S	本年度、本WGでは「単位互換」導入に向けた取り組みに合わせ、西九州探究に関連する授業科目の設置に向けた議論を進めることを目標としていた。実際には「西九州探求(長崎学・佐賀学)Ⅰ・Ⅱ」の設置を決定し、シラバス等を作成するなど、QSP科目群の構築をはじめることができた。新規開校科目の内容等についても、参画校間で協議を継続しており、当初の目標を上回る成果をあげることができた。		
			A-4	・人材バンク、共同FDSD、人事交流	・第2期QSPの体制に合わせ、3分野に再構成した人材バンクで参画校の教職員を登録し、これまで地域の教育活動、地域活動の活性化のための人材派遣など支援を行ってきた実績を踏まえ、地域からの多様な要望に応えるため、ニーズオリエンテッドな人材バンクの活用拡大を目指し、他のWGとの連携・協働を行う。 ・プラットフォーム事業の趣旨を徹底し、QSP参画校の教職員協働での事業推進を図るための共同SD・FDを計画的に実施する。 ・QSP参画校間および組織間での教職員の人事交流(非常勤講師の派遣を含む)を活発に行っていく。	[人材バンク] QSP人材バンクを活用した人材派遣として、各種の研修会、講習会、公開講座、専門家会議等へ31件(12月末時点)の実績である。本年度、人材データベースを「教育改革プロジェクト」、「SDGs推進プロジェクト」、「国際交流プロジェクト」の3分野で、登録教職員数は72名で公開を行った。 [共同SD・FD] ① R7.9.8(月) テーマ「教学マネジメントについて」(ハイブリッドでの開催)主催: 西九州大学短期大学部 ② R7.9.17(水) テーマ「教育現場で見える“つまずき”から考える学生理解と支援のヒント」(オンラインでの開催)主催: 短大系WG ③ R7.9.29(月) テーマ「九州地区短期大学における学習成果の在り方について」主催: 短大系WG ④ R8.1.28(水) テーマ「学生は大学でどう学ぶか、2030年の教え方学び方」主催: 長崎国際大学 ⑤ R8.1.29(木) テーマ「西九州大学・短期大学部におけるダイバーシティセンターの現状について」、「高等教育機関における合理的配慮の正しい理解」主催: 西九州大学、西九州大学短期大学部 ⑥ R8.2.20(金) テーマ「ハラスメント予防と職場の心理的安全性を高めるためのストレスマネジメント」(ハイブリッドでの開催)主催: 短大系WG ⑦ R8.3.12(木)～23(月) テーマ「DXIによる大学教育の質的転換」(オンデマンドでの開催)主催: 鎮西学院大学、長崎外国語大学、長崎総合科学大学 ⑧ R8.3.12(木)～23(月) テーマ「数理・データサイエンス・AI」(オンデマンドでの開催)主催: 鎮西学院大学、長崎外国語大学 ⑨ R8.3.27(金)テーマ「「食つな」とつながる地域連携」(ハイブリッドでの開催)主催: 短大系WG ※開催予定のものを含む	A	第2期QSPの体制になってから「教育改革プロジェクト」「SDGs推進プロジェクト」「国際交流プロジェクト」の3分野にまたがる人材バンクを構築することに努めてきたが、今年度で72名の職員の登録とデータベース化を達成し、参画校間及び他組織との間の人事交流に活用することができた。併せて、計9回の共同SD・FDを計画・実施し、QSP事業の趣旨を周知することにより、円滑な事業推進を図るなど、全体として当初の目標を達成することができた。		
			A-5	・共同IR	・プラットフォーム事業を推進するに当たり、参画校の教学に関する情報を集約・分析し、各WGが事業計画作成等に活用するための基礎資料作りを行うとともに、活動中に得られた情報を共有・公開に取り組む。	これまで継続して、QSP参画校での共同IR調査を実施し、IR資料のデータを全校より提供を受け、情報を集約整理し、更新したデータをQSP公式サイト上にて情報公開を行ってきた。 このデータに基づき、連携校の学長による評価、分析コメントの取りまとめを行い、合わせて情報公開している。 QSPによる事業基盤となるIRIに関する情報を各校にフィードバックして、QSPとしての強みと課題、現況を参画校にて、情報を共有化し、各WGでの事業推進のための計画作りなどに活用している。 令和7年度分の次年度の調査に向けた準備を進めている。	A	参画校の教学に関する情報を集約・分析し、QSP公式サイト上に各学長の評価・分析コメントも付して公開した。また本事業の基盤となるIR関係の情報を共有化して、各WGの事業推進における計画策定に活用するなど、当初の目標を達成することができた。		

令和7年度 事業実績報告及び自己評価

評定値 リスト	S	目標以上の成果を上げることができた
	A	目標を達成できた
	B	一部改善は必要であるが、おおよそ目標を達成した
	C	目標未達であり更なる努力や大幅な計画の見直しが必要

中期計画					令和7(2025)事業計画	令和7(2025)年度実績	自己評価		外部評価	
課題分野名	課題の数値目標	WG名	No.	事業の概要			評定値	コメント	評定値	コメント
教育改革 プロジェクト	①QSP科目群としての授業の提供、または共同開発(期間中に5科目以上) ② 共同FD・SD(短大系含む)の実施(期間中に15回以上) ③ 共同研究の実施(期間中に10件以上) ④ 共同IRによる共通調査等の実施(期間中に5件以上) ⑤ 高大接続事業(共同訪問、共同説明会等)の実施(期間中に5件以上) ⑥ 地元就職支援に係る地元企業との連携事業(期間中に5件以上) ⑦ リカレント教育の講座等の実施(期間中に10件以上)	B. 人材育成・高大連携WG(責任校): 鎮西学院大学	B-1	・「地域創生支援リーダー育成入試」	・引き続き「地域創生支援リーダー育成入試」の学生募集に合同で取り組む。 ・1・2年生対象の地域創生リーダー育成プログラムを実施。	・令和7年度入学者2名。募集のため3校共同パンフレットの作成、学校訪問を実施。	A	・24年度に続き、2名の入学者を獲得。		
			B-2	・合同グループ面接講座	・「地域創生リーダー育成プログラム」として1・2年生対象プログラムを実施	地域創生支援リーダー育成プログラムとして、1年生を対象とした地元就職活動プログラムの一環として、企業魅力発見バスツアーを実施(10月20日)。地域創生支援リーダー育成入試で入学した2名(長崎国際大学)と鎮西学院大学から3名の学生が参加した。	A	1年生向けのキャリア支援プログラムとして、長工醤油味噌協同組合・社福)南高愛隣会LOCAL STATION FLATの見学を実施。 昨年の反省を元に、複数大学からの学生参加が実現し、交流の機会を創出できた。		
			B-3	・合同企業説明会	・引き続き「地域創生リーダー育成プログラム」3年生対象プログラムを実施。	2025年9月12日(金)に本学と長崎外国語大学の共同事業として18親和銀行本店とヒルトン長崎で企業見学会を実施した。	A	両社の人事マネージャー・担当者が登壇し、会社の概要、求める人材、学生のうちに身につけておいてほしい力・姿勢・意識などについてわかりやすく説明。積極的な質疑応答がなされ、学生のキャリア形成支援において意義深い交流の場となった。		
			B-4	・リケジョ事業	・引き続き実験体験会等のイベントを企画・実施	・「女子中高生のための！リケフェスin SASEBO」を実施(6/29)。女子中高生64名・保護者27名が参加。終了後、参加者アンケートを実施。 ・「女子中高生のための 今知りたい！理系進学で広がる未来 リケフェス2025」を実施(9/28)。女子中高生93名、保護者42名が参加。	A	6/29の中高生アンケートの結果、今回の取組が進路選択の参考になったとの回答は95%であり、取組の目的は達成されたと評価する。		
		C. 短大系WG(責任校): 佐賀女子短期大学	C-2	・リカレント	・各大学主催のリカレントに関する講座の取りまとめと広報活動 ・「セルフ・キャリアドック面談」の実施 ・「ノーコードアプリ公開講座」	・「セルフ・キャリアドック面談」R5年度から継続 ・「ノーコードアプリ公開講座」8月(実施)、9月(実施)	A	・「セルフ・キャリアドック面談」の実施 ・「IT公開講座」8/2(土)、9/27(土)に実施。8/2(土)は中高生以上を対象として実施し、中学1年生の参加があった。9/27(土)は「今更聞けない生成AIの使い方」として実施。		
					・合同のキャリア教育(リーダーシップ研修)の実施	2月下旬にオンラインで4校合同の学生研修会の1回目をオンラインで開催予定。各校2～3名ずつ、計10名前後が参加予定。	A	1月末に開催予定の打ち合わせを経て、学生の情報発信スキルの修得を中心とするリーダー研修会の1回目を、オンラインで2月下旬に開催予定。なお、2回目の研修会は7～8月に対面で開催予定。		
					これまでに蓄積した在学生調査、卒業生調査のデータの分析を行なうとともに、それらをふまえた卒業時調査、就職先調査、高校調査等の共同IRの実施に向けて、検討を行う。	現在3校合同の在学生調査を実施中(12～1月)。また、6月に1回目の共同IR調査見直しのミーティングを開催し、2回目のミーティングを年度内に開催の予定。	A	例年同様に合同の在学生調査を実施し、今後の各種調査の検討に着手できた。		
			C-3	・広報	・地方短大の維持発展のための、合同FD/SD研修会のテーマの検討と実施	2025/9/17QSP短大系WG・佐賀女子短大・長崎短大・西九州大学短大部共催FD・SD研修「教育現場で見える“つまずき”から考える学生理解と支援のヒントーワーキングメモリの視点からー」@佐賀女子短大	A	ワーキングメモリという新しい視点で、困り感のある学生の理解と支援についての知見を深めることができた。		
SDGs推進 プロジェクト	⑧ 共同公開講座の実施(年5件以上) ⑨ 健康増進事業の実施(期間中に10件以上) ⑩ 自治体、地場産業、地場企業からの課題解決にかかる受託事業等(期間中に5件以上) ⑪ 自治体、地場産業、地場企業とのWGの組成(期間中に5件以上) ⑫ 施設・設備の共同利用による取組の実施(期間中10件以上) ⑬ 初中等教育関連教材の開発(期間中に4本以上) ⑭ 初中等教育関連支援活動の実施(期間中に10件以上)	D. 健康・福祉推進WG(責任校): 西九州大学	D-1	・ウォーキングで健康イノベーション	・市内での多数のイベントが開催されていたにもかかわらず、250名以上の一般参加者と60名以上の高校生ボランティアが参加したという令和6年度までの経験を活かし、「ウォーキングで健康イノベーション」事業概要、事業計画名のもと、連携大学、短期大学、佐賀県内の高校生ボランティア、佐賀県商工会議所連合会各種企業および佐賀県とのコラボによる「QSP健康ウォーク2025in佐賀」を開催。 ・佐賀市とのコラボによる「QSP健康ウォーク」(仮称)の開催	令和7年度の計画であった、連携大学、短期大学、佐賀県内の高校生ボランティア、佐賀県商工会議所連合会各種企業および佐賀県とのコラボによる「QSP健康ウォーク2025in佐賀」を開催し、一般参加者は331名で史上最高の参加者数となった。アンケートの結果から、佐賀市からの参加が67.6%と最も多かったが、長崎県や福岡県からの参加もあった。99.5%の参加者が次回も参加したいと回答しており、各テントブースで開催された健康関連の各展示にも多数の参加者が認められた。 佐賀市の高校のボランティアも各展示ブースやウォーキング支援で活躍し、参加者の高校生、大学生ボランティアに対する評価は非常に高かった。これらの結果より、QSP健康ウォークの知名度が広がりがつつあるものと感じている。	S	令和7年11月30日、連携大学、短期大学、佐賀県内の高校生ボランティア、佐賀県商工会議所連合会各種企業および佐賀県とのコラボによる「QSP健康ウォーク2025in佐賀」を計画通り開催できた。 これは7年間続くイベントであり、最高の参加人数は331名(一般の市民の参加者)で、佐賀県内の2つの高校からのボランティア参加も実現できた。市民の皆様にQSP健康ウォークが浸透し始めている状況と考えられ、今後はQSP事業への理解を深めて頂く施策が必要と考えられる。西九州大学健康福祉学部スポーツ健康福祉学科の学生の指導の下、準備運動後、ウォーキングの基本的なフォームを確認しウォーキングイベントを開始した。 ・共済: 佐賀県 ・後援: 佐賀県商工会議所連合会 様、佐賀市 様 ・協賛: 荒木電気通信(株)様、大串製菓店 様、小城商工会議所 様、(株)栄美通信様、(株)千鳥万巡総本舗様、(株)真子ガラス点様、キッコーマン食品株式会社 九州支社 様、佐賀ガス株式会社 様、佐賀県波戸岬少年自然の家様、佐賀県ヤクルト販売株式会社 様、佐賀バルーナーズ 様、SAGA久光スプリングス 様、サガン鳥栖様、中央警備保障株式会社 様、原田株式会社 様、(株)西九大サポート 様 健康・福祉推進WG参画校の教職員89人・学生119人、高校生ボランティア(佐賀清和高等学校、北稜高等学校)61人、佐賀県職員様 2人 合計 271人		

令和7年度 事業実績報告及び自己評価

評定値 リスト	S	目標以上の成果を上げることができた
	A	目標を達成できた
	B	一部改善は必要であるが、おおよそ目標を達成した
	C	目標未達であり更なる努力や大幅な計画の見直しが必要

中期計画					令和7(2025)事業計画	令和7(2025)年度実績	自己評価		外部評価	
課題分野名	課題の数値目標	WG名	No.	事業の概要			評定値	コメント	評定値	コメント
SDGs推進 プロジェクト	⑧ 共同公開講座の実施(年5件以上) ⑨ 健康増進事業の実施(期間中に10件以上) ⑩ 自治体、地場産業、地場企業からの課題解決にかかる受託事業等(期間中に5件以上) ⑪ 自治体、地場産業、地場企業とのWGの組成(期間中に5件以上) ⑫ 施設・設備の共同利用による取組の実施(期間中に10件以上)	E. 地域産業振興WG (責任校): 長崎総合科学大学	E-1	・観光・まちづくり事業	・2025年度より、産学官連携の枠組みに長崎市DMO、県観光連盟、NTTグループも参加して、長崎市版ESD＝NESDモデルを創造し「地域課題解決型修学旅行プログラム」の戦略をもとに、観光人財育成とコンテンツを以下の4つのメニューとして具体的な磨き上げを実施、商品販売活動まで実施する。 ①歴史文化、②平和学習、③脱炭素エネルギー、④限界集落の交流。	産学官連携の枠組みをもとに長崎市版ESD＝NESDモデルを創造することができた。「地域課題解決型修学旅行プログラム」のコンテンツメニューと収支計算を含めた具体的な磨き上げと実証実験を実施。実際の商品販売活動まではできなかったものの、2026年度に磨き上げ、実証実験、商品造成まで実施したい(コンテンツメニュー:①歴史文化、②平和学習、③脱炭素エネルギーに絞る)。	B	NESD企画の磨き上げ、実証実験の実施、商品造成(含むコンテンツ・収支計算)までを実施した。その一方で、商品販売、販売ネットワーク構築まで至らなかった。次年度は具体的な商品販売まで行いたい。		
			E-2	・地場産業振興(窯業他)	・ドローンを用いた生産管理計画をたて、実証実験を行う。台数、積載量を増やす。PCを用いて飛行シミュレーションを行う。	現状の物流課題として「どこで在庫が滞留しているのか」「何がボトルネックなのか」を調査するとともに、ドローンによる小口多頻度輸送への代替可能性を検討し、適正在庫を維持するJIT(ジャスト・イン・タイム)型生産管理モデルの構築を目指した。	A	計画通り、ドローン輸送の実証実験を行った。また、工場の在庫や工程を確認し新たな課題の明確化ができた。		
			E-3	・創業支援	・学内ビジコンの開催、県ビジコンへの参加	2025年度 文部科学省主催 全国アントレプレナーシップ人材育成プログラム(12/6,7)への学生派遣。FDプログラム(11/27)への教員派遣を行った。県のビジネスプランコンテストに2組、九州大会に2組参加した。学内ビジコンは授業の一貫として開催(9/1)した。	A	育成プログラムに4名の学生の参加、FDプログラムには2名の教員が参加した。県ビジコンでは準グランプリ、九州ビジコンでは企業賞を受賞した。		
			E-4	小中学生向け体験教室	・プログラミング体験を含むものづくり体験教室を開催する。地元企業に加えて、QSP参画機関にも参加を呼び掛ける。	2025年7月27日(日)に開催し、当日の体験者は287人(前年比約18%減)であった。今年の体験教室は前年と同じく9教室で、教室出展企業は4社(前年比1社減)であった。また当日に、体験登録不要という形で2教室を追加した。その中の1教室は、長崎県立大学の教員が担当した。	S	教室出展企業の内、3社は前年も出展しており、1社が新規であった。また、追加出展教室として、長崎県立大学の教員の協力も得られた。当日参加した体験者及び同伴者へのアンケート(111件回収)の感想として、「楽しかった」「とても楽しかった」が併せて95.5%であった。		
			E-5	・ICT教育	・E-5とE-6を通貫する取組として、ICT技術を一部含むDXによる各大学の教育の質転換を支援し、取組状況の社会への発信を実施するほか、加盟各校のデータサイエンス教育への取組状況の調査と「数理!・データサイエンス・AI教育」認定校の増加を目指す。	DX人材育成を目指して、新上五島町の2社(製麺業、水産物加工業)の業務システムの開発を一研究室の卒業研究として実施し、学生にはヒアリングから開発及び企業との対応を体験させた。また、この事業推進に当たって、IT系の県内企業、新上五島町等の協力も得た。 また、3/12～23の期間にオンデマンド配信による共同SD・FD「DXによる大学教育の質的転換」を開催。	A	ICT教育ではなかったが、社会の要請に応えるべく実施していたDX人材育成を当事業として実施した。先方の企業との間では、開発とフィードバックを繰り返しながら開発を進め、SEを目指す学生に良い機会を与えることができた。		
			E-6	・データサイエンス教育		2～3月に、QSP参画校に対して、MDASH(数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度)への取組状況を調査し、QSPとして今後取り組むべき具体策を検討する予定。 また、3/12～23の期間にオンデマンド配信による共同SD・FD「数理・データサイエンス・AI」を開催。	B	調査の実施だけに留まり、QSPとして取り組むべき対策の検討には至っていない。		
	⑬ 初中等教育関連教材の開発(期間中に4本以上) ⑭ 初中等教育関連支援活動の実施(期間中に10件以上)	F. 子ども育成WG (責任校): 長崎短期大学	F-1	・共同研究「幼児教育等家庭支援」	・令和6年度第2回WG会議において、令和7年度以降は、「保育・幼児教育現場における子ども家族の多様化、それに伴う新たな人材の育成」というテーマでの共同研究を検討予定である。	令和7年度は、QSPの参画校に研究協力者の募集を行い、西九州大学、長崎国際大学、佐賀女子短期大学、西九州大学短期大学部、九州龍谷短期大学、長崎短期大学からそれぞれ1名の研究協力者が選出され、計6名で共同研究を実施することとなった。5月～7月に研究テーマと方向性を協議し、地域の障害児福祉サービスに従事している職員を対象としたアンケート調査を実施することとなった。今年度内に研究計画の詳細を決定し、次年度から調査を開始することとなった。	A	テーマ設定と研究の方向性についての協議を行い、アンケート調査に用いる質問紙の作成に現在着手している。質問項目の内容の精査を今年度中に行う予定である。アンケート調査の作成と研究の手続きに関する検討等を本年度行い、次年度で本格的な調査を実施するような内容で事業企画書を作成した。また、アンケートをどのように配布するかなどの詳細な計画についても、今後協議を重ねる予定である。		
			F-2	・子ども発達支援士養成プログラム	・子ども発達支援士養成プログラム(卒後研修・リカレント教育)の実施。大学コンソーシアム佐賀を構成する(放送大学を除く)5つの連携校にて研修日程を調整して実施。	子ども発達支援士養成プログラム(卒後研修)の実施。大学コンソーシアム佐賀を構成する(放送大学を除く)5つの連携校にて研修日程を調整して実施。	A	本年度の新規受講申請者は11名だった。研修受講者は九州龍谷短期大学2名(R7年度登録者)、佐賀女子短期大学1名(R6年度登録者)、計3名の参加となった。R6年度受講登録した8名の内1名が今年度受講しているが、本資格(2年間実施するプログラムで資格取得)取得申請はされていない。		
			F-3	・子ども育成リレー講座	・子ども育成WG参画校で子ども育成に関わる内容の公開講座をリレー形式で開催する。	令和7年度第1回子ども育成WG会議にて、案内チラシ完成及び広報開始。リレー公開講座全6講座(2月まで)実施。うち2講座については参加者が無かったため未開催となった。参加者数は全講座合わせて187名。	B	子ども育成に関わる内容で、親子向け、保育・教育者向けの内容を、WG参画校でのリレー形式による公開講座を開催した。新たな広報の方法については各校へ委任することとしたが、昨年度に続き参加申し込みが無かった講座もあった。R8年度は講座の内容や形態及び広報の方法について、参加者アンケート結果の内容を精査し、WGとしての枠組みを意識した活動としていきたい。 子ども育成関連団体や行政との連携も達成できていないため引き続き模索していきたい。		

令和7年度 事業実績報告及び自己評価

評定値 リスト	S	目標以上の成果を上げることができた
	A	目標を達成できた
	B	一部改善は必要であるが、おおよそ目標を達成した
	C	目標未達であり更なる努力や大幅な計画の見直しが必要

中期計画					令和7(2025)事業計画	令和7(2025)年度実績	自己評価		外部評価	
課題分野名	課題の数値目標	WG名	No.	事業の概要			評定値	コメント	評定値	コメント
国際交流 プロジェクト	⑮留学生支援事業 の実施(期間中に5 件以上) ⑯留学生交流事業 の実施(期間中に5 件以上)	G. 留学生支 援WG (責任校): 長崎外国語 大学	G-1	【留学生受入れ支援】 A: 共同学生募集 ・共同多言語パンフを作成しHPに掲 載 ・海外共同学生募集活動の展開(現 地日本語教育機関等) ・在学生・卒業生サポーターによる各 大学等のPR発信(サポーターに報酬 支弁) B: 域内進学促進	A ・共同学生募集(HP)継続と対象校拡大 ・G-4海外同窓会参加者による各校の魅力発信事 業の実施 B【当初計画修正】財源の問題に鑑みいったん削 除	A 共同学生募集として、各校留学生募集要項のHP掲載、QSP共同入試のための共同高 校訪問(3大学)を継続実施した。 また9/16(火)に福岡市・九州英数学館にてQSP合同留学生進学説明会を実施した。 2〜3月の海外同窓会において参加者による魅力発信(SNS)の着手依頼を行った。	S	9月の合同留学生進学説明会は計画外事業であった が鎮西学院大の尽力により成功裏に実施できた。 更に2/28(土)実施の海外同窓会にて、参加卒業生の ネットワーク形成は一定程度完了した。外的な要因によ る急速の開催地変更とはなかったが、結果的に既往の中 国大陸に加えて大韓民国でのネットワーク形成がなさ れたことに鑑み、「目標以上の成果」に繋がったと判 断してS評価とする。		
			G-2	【日本語教育支援】 A: 日本語教育ピアサポーターの育成 B: 日本語教育リソース共同開発	【当初計画修正】 ゼロベースでの計画の見直しと新規事業案の策 定(可能であれば試行的実施) (検討の方向性)大学・短大での日本語教育のみな らず地域社会への効果波及を志向。 外国人材の受入れを行う産業界等との連携や日本 語教育専攻の学生の就業体験等	WG長校が10月に文部科学省から「登録実践研修機関・登録日本語教員養成機関」の登 録認可を受け、R8年4月から両機関により「日本語教員養成課程・実践研修」を実施するこ ととなった。これら課程等をQSP及び自治体・産業界に積極的に開放することで中期計画を 達成していくこととし、R8年度以降の本格化に向けて細かな手法検討を行うこととしたい。	A	枠組の整備は完了。具体的な手法については、R8年 度第1四半期までの継続検討とする。		
			G-3	【国内キャリア形成支援】 A: 佐賀県・長崎県内企業とQSP内留 学生とのマッチング促進 ・留学生スカウトイベント ・卒業生による企業PR発信(QSP外 の大学等への展開も検討) B: 佐賀県・長崎県内企業卒業生の定 着促進支援(定着阻害要因の分析、 課題解決のための共同講座等の実 施)	・佐賀県及び佐賀県内産業界の意見聴取 ・実施方案の検討 ・地場企業と留学生とのマッチングイベントの試行 的実施 ・効果検証と次年度計画の策定	2/13(金)佐賀県産業人材課・多文化共生さが推進課とのZoom会議を実施。事業ニーズ の聴取と今後の連携可能性について意見交換を行った。産業構造の違いによる人材ニー ズのアンマッチ等の課題はあるが、広く長崎県内留学生と佐賀県企業との接点創出事業に は相互のメリットがありそうであり、今後の連携可能性を探ることとした。	A	左記のZoom会議を通じてG-3事業の次年度事業計 画に具体性を付与できる見通しが立ったこと等を勘案、 試行実施には至らなかったもののA評価としたい。		
			G-4	【国外キャリア形成支援】 A: 学修歴デジタル証明 B: 母国内同窓会の組成(卒業後紐帯 維持、佐賀県・長崎県の魅力発信の 担い手、上記G-1「サポーター」への 循環も)	A【当初計画修正】今後事業ニーズの精査を要す るほか、財源の問題に鑑みいったん削除 B ・中国上海市の海外同窓会の継続実施 ・海外同窓会参加者による「G-1各校の魅力発信事 業」の実施	B 中国上海市での海外同窓会の継続実施について準備を進めていたが、秋以降の日中 間の政治的緊張の高まりを受けて同地開催への懸念が高まり、WG長校にて検討の結果、 R7年度は中国開催を取り止めることとした。 その後、代替開催地を韓国・釜山市と定め、2/28(土)に30名の参加を得て実施。当日は 参加者出身校の現況紹介や同窓生相互、或いは同窓生と各大学等とのネットワーク形成 (SNS)の依頼を行い、ともに好感触を得た。今回の参加者には当地の教育機関に勤務す る者も多く、今後の定期的な情報発信により、G-1(共同学生募集)への循環を具体的に志 向していきたい。	A	左記同窓会の実施については、参加者出身校に拡が りを欠いた点は反省材料であるが、政治外交問題に伴 う困難の中で代替開催地にて成功裏に実施できた点に 鑑み、A評価としたい。		
		H. 留学生交 流WG (責任校): 西九州大学 短期大学部	H-1	・ACC(アジアンコミュニティカフェ)	1 本事業実施に向けた合意形成 2 配分予算に係る協議 3 企画書提出 4 企画の実施 5 報告書の提出 6 次年度に向けた企画提案 7 「QSP異文化理解教室:小学生と留学生との交 流」の継続実施(唐津市立厳木小学校・佐世保市 内の学校)	国際連携事業として、佐賀県内の地元小中高等学校と連携し、「世界の魅力」というテー マで、留学生と一緒に「出前授業」を実施している。今年度、計4回行われた。	A	佐賀商業、西郷小学校、千代田中部小学校に留学生 を出講し、日本語や英語で交流を行った。高校では活 発な交流と小学校では、児童が最初緊張したが、終わ りごろ仲良くしている姿を見られた。		
			H-2	・異文化理解教室		西九州大学短期大学部では本年度は多久市における「アートと日本語で外国人と振れ合 おう」を実施。また唐津市立厳木小学校での異文化理解教室を実施。長崎国際大学につい ては佐世保市の広田小学校、九州文化学園高校、平戸市の猶興館高校で交流を行った。	A	西九州大学短期大学部では、佐賀県国際課及び多 久市との共催でのイベントであったが地域の技能実習 生も参加し盛況であった。長崎国際大学の取組は回を 重ねるごとに児童生徒と留学生との交流が年々円滑に なってきたという手ごたえが感じられる。		
			H-3	・英語イマージョンデイキャンプ		長崎外国語大学では、例年通り新上五島町役場・新上五島町教育委員会との共催として 9月に実施し、町内小学生8名が参加した。	B	早期に新上五島町と日程調整に入り、町内小学生の 参加しやすい日程を組んだが、参加者数が伸びず数値 目標(30名)に到達しなかった。同一町内で複数回開催 したことにより「慣れ」が生じているものと思われ、R8年 度に向けてコンテンツのブラッシュアップを検討する。		
			H-4	・佐賀国際フェスタ		佐賀女子短期大学では、国際交流協会が企画している「SPIRAさが国際フェスタ」に民族 衣装の試着、ミャンマーのお化粧体験、ミャンマー語体験などのブースとミャンマーの歌、ダ ンスなどのステージの担当し、国際交流を深めることができた。	S	留学生が毎年楽しみにしているこのイベントにおい て、留学生がイベント内容を企画し、練習を重ねて参加 できる体制を整えたことは大きな成果であるとする。 企画を通じて異文化理解が深まり、学生の主体的な関 わりが見られた点を評価したい。今後もより多様な文化 背景を尊重したプログラムづくりを目指したい。		

令和7年度 事業実績報告及び自己評価

評定値 リスト	S	目標以上の成果を上げることができた
	A	目標を達成できた
	B	一部改善は必要であるが、おおよそ目標を達成した
	C	目標未達であり更なる努力や大幅な計画の見直しが必要

中期計画					令和7(2025)事業計画	令和7(2025)年度実績	自己評価		外部評価	
課題分野名	課題の数値目標	WG名	No.	事業の概要			評定値	コメント	評定値	コメント
中期計画策定・点検評価委員会	①各プロジェクト及びワーキンググループにおける指標達成の管理と評価を行う。 ②中期計画全体の進捗管理と評価(各年度に実施、中間評価を3年目に実施し、最終評価は最終年度に実施する)	中期計画の策定	I-1	・中期計画を取りまとめる	・第2期中期計画令和5、6年度の実績、取組状況を確認し、第3期を視野に入れながら適宜修正を図る。	令和7年度より、九州龍谷短期大学の退会のためWGを再編し、11校、3自治体、2経済界、計16参画機関の新体制で改訂中期計画をスタートさせた。	A	九州龍谷短期大学退会後の新体制のWGIにて、引き継いだQSP事業も含め、着実に推進を図った。	【総評】 外部評価委員会の議事録は、各委員がそれぞれの経験に基づき真摯にコメントしたものであるため、十分に読み込まれることを期待している。その上で、各大学・短期大学において、指摘された課題を全体で共有し、今後の更なる発展につなげていただきたい。 目標設定と計画に関して、教育など質的な発展目標において厳密な数値目標をあらかじめ定めることは難しい側面があるものの、得られた成果を客観的に評価するための「評価基準」を明確に定めることも質的評価におけるKPIであり、「計画が順調に実行・進展した場合はA評価」「予期せぬ困難が生じたにもかかわらず達成した場合はS評価」といった具体的基準を共有することも必要ではないか。評価の目安としてアンケートを取り結果を分析する方法もあるが、数値に関する結果は、一覧表等で一目でわかるよう可視化の工夫が必要である。 各WGの取り組みにおいては、自己評価表において計画進捗の具体的な中身や特徴的な取り組みを分かりやすく記述すること、および魅力的なプロジェクトであっても参加者の評価や変化が十分に伝わっていないため、参加者の「声」を明確に示すことが求められる。特に外部評価委員会において強く感じた点は、学生の力をプロジェクトに引き出し活用することの重要性である。最も有益で的確なのは学生の生の声であり、単なる満足度調査にとどまらず「どうすればより良くなるか」と改善策を具体的に問うことで非常に有益な提案が得られる。この視点は地元に残る卒業生に対しても同様であり、大学・短期大学が核となり、卒業生の起業や地域活躍を本プラットフォームでサポートする体制の構築が期待される。 数理・データサイエンス・AI教育については、個別大学の課題にとどまらず地域全体の高等教育の質的向上に関わるテーマであり、基礎概念や倫理等のリテラシー教育については、単独大学ではなくプラットフォーム全体で共同展開・推進することが適当ではないかと考える。これまでの参画機関の不断の努力に敬意を表し、今後の更なる発展を期待している。	
		中期計画の進捗管理	I-2	・中期計画に記載した各事業について、ワーキンググループと連携して、進捗状況を把握・管理する。	・第2期中期計画3年度の進捗、目標管理を行う。	R7.10 私立大学等改革総合支援事業タイプ3(PF型)申請 R8.1 第2期2年目令和6年度係数、令和7年度事業実績確認(学校基本調査等) R8.3 中期計画策定・点検評価専門委員会にて全体自己評価	A	同上		
		中間報告書の作成	I-3	・中間外部評価を受けるための中間点検評価報告書を取りまとめる。	・中間報告書作成に備え、令和5、6年度実績を取りまとめる。	令和6年度事業実績、自己評価を取りまとめ、R7.7.23外部評価委員会に報告、R7.9.29講評を受け、QSPウェブサイトアップした。令和6～7年度、WGの実績を取りまとめた。	A	第2期中計R5～R7年度の実績確認を行った。		
		最終報告書の作成	I-4	・最終外部評価を受けるための最終点検評価報告書を取りまとめる。	・最終報告書作成に備え、令和5、6年度実績を取りまとめる。	同上	A	同上		
		外部評価の実施	I-5	・外部評価の企画・準備・対応を行う。	・外部評価を受けるため、各WGの自己評価を取りまとめる。	令和7年7月23日令和7年度外部評価委員会を開催し、令和7年9月29日講評にて令和6年度活動実績の評価をいただいた。	A	外部評価委員会をに、令和6年度活動実績、自己評価を提出し、評価をいただいた。		
		中期計画の改定	I-6	・事業の進捗により中期計画の修正が必要になった場合に、改定作業を行う。	・第2期中期計画の事業進捗、参画機関の動きに合わせ、適宜協議のうえ改定する。	改正事項なし	—	—		
		次期計画の検討	I-7	・本中期計画の終了後の事業の継続・発展のための次期計画について検討を行う。	・各年度の事業実績について、課題を確認しながら次期中期計画策定に備えていく。	九州龍谷短期大学退会に伴う新体制での実績を取りまとめた。	A	第2期中期計画も、着実に実績を重ねている。		
プラットフォーム事業全体					・第2期中期計画2年間の進捗状況を見ながら、令和7年度事業を実施する。	第2期中期計画3年目、九州龍谷短期大学の退会後1年目の新体制、新グループ、新責任校の事業推進態勢が定着した。九州龍谷短期大学担当事業は、人材育成・高大連携WG(責任校:鎮西学院大学)、地域産業振興WG(責任校:長崎総合科学大学)が引き継ぎ実施。 ＜事業予算＞ ・事業運営資金及び人件費の確保のため、参画機関のうち、私立大学・短期大学より、令和7年度の年会費100万円／校納付。8校計800万円。各WGIに各30万円を基準として270万円を活動費として配分。 ＜外部評価委員会の開催・講評＞令和7年7月23日開催、9月29日講評 ・「QSPのフレームを、地域へのアピール、国際交流など事業推進に活かしてほしい。」とのコメントを受領。 ＜令和6年度 私立大学等改革総合支援事業採択＞ 令和7年2月 ＜令和7年度 私立大学等改革総合支援事業申請＞ 令和7年10月 ・タイプ3「プラットフォーム型」に9回目の申請。調査票得点率96.0%。 ・QSP中長期計画に対する自己評価では、「A(当初の計画を着実に実施してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。)」として申請。	A	・WG毎の事業では、活発、意欲的な事業が多く自己評価もS、Aが多くなっている。ただし一部検討、準備段階にとどまり、B評価の事業もあるため、左記の実績と以下を総合的に勘案し、全体自己評価を「A」とする。 ・第2期中期計画3年度で通算9年目となった令和7年度は、新体制、新WGを中心として、新たな企画にも積極的に取り組み、順調に推移している。 ・中期目標、目標係数達成状況については、係数目標4項目のうち1項目を達成中、課題ごとの第2期活動目標(16項目)についても11項目達成(中)、着実に実績を積み上げている。		
					＜中計目標達成状況＞※実績/目標値 1. 係数目標の達成状況(R6年分) 4項目中1項目(以下①)達成 ※令和7年度はまだ係数不明 ①進学率(大学・短大)両県計47.2%/47.1%、②県内の大学への進学者数6,296人/6,460人、③大学生の流出入差△3,135人/△3,100人、④県内就職率(私立)55.0%/56.5% 2. WGのR7年度活動目標別取組状況(R8.3.23現在) 「教育改革プロジェクト」① QSP科目群としての授業の提供、または共同開発(2/5科目)、② 共同SD・FDの実施(25/15回)、③ 共同研究の実施(6/10件)、④ 共同IRによる共通調査等の実施(5/5件)、⑤ 高大接続事業(共同訪問、共同説明会等)の実施(8/5件)、⑥ 地元就職支援に係る地元企業との連携事業(9/5件)、⑦ リカレント教育の講座等の実施(9/10件) 「SDGs推進プロジェクト」⑧ 共同公開講座の実施(9/年5件)、⑨ 健康増進事業の実施(4/10件)、⑩ 自治体、地場産業、地場企業からの課題解決にかかる受託事業等(8/5件)、⑪ 自治体、地場産業、地場企業とのWGの組成(3/5件)、⑫ 施設・設備の共同利用による取組の実施(18/10件)、⑬ 初中等教育関連教材の開発(8/4本)、⑭ 初中等教育関連支援活動の実施(16/10件) 「国際交流プロジェクト」⑮ 留学生支援事業の実施(9/5件)、⑯ 留学生交流事業の実施(10/5件)					